

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区古新町二丁目72番地		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域(町内)との関わり合い、いきいきサロン・町内パトロール・秋祭りに参加など行き交流や役割りを大事にしています。</li> <li>・利用者様の生活の質の向上の為に、職員が利用者様と接するところから笑顔で対応できるように心掛けています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390900021-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390900021-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームで継続的に行われている取り組みとして、地域の方と連携した夜間のパトロール活動への参加があり、管理者が交代している現状においても、当該活動については継続して行われており、地域の方との協力関係の構築に取り組んでいる。他にも地域の方が定期的に行っているサロンに利用者に参加したり、災害訓練への参加、協力も行われている。定期的に開催している運営推進会議についても、毎回、複数の地域の方の参加が得られていることで、会議を通じて地域に関する情報交換の機会にもつながっている。会議で出された意見等がホームの運営への反映につなげている。また、ホームでは外出の機会を多くつくっており、季節に合わせた外出行事の他にも、ホーム以外の入浴施設にも利用者が出かける等の取り組みも行っており、利用者の楽しみの機会につなげている。</p>
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年11月5日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・ユニットごとに固定理念と短期理念(ユニット会議で3ヶ月毎に設定)をユニット会議で復唱し、またユニット毎に短期理念を達成できたか?意見を共有し実践しています。	運営法人の基本理念をホームの理念の基本と考えながら、利用者にとってホームでの生活が「明るく、楽しく、元気よく」なるような支援を目指している。また、フロア毎に3か月間の目標をつくる取り組みが行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・町内内行事(いきいきサロン・町内パトロール・秋祭り)に積極的に参加する事によって、地域の一員として過ごして頂いています。	地域の方との交流については、前向きな取り組みが行われており、毎月の夜間パトロールにホームからも職員が参加する取り組みを継続している。また、地域で行われているサロンにも参加する機会をつくり、交流につなげている。	地域の方にホームを知ってもらう機会をつくっているが、地域の方がホームに訪問する機会が限られた範囲となっている。ホームでの検討を深めながら、地域の方がホームに訪問の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・地域の方との交流を通じて、利用者様の状態や関わり方を理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2ヶ月に1度開催し、町内会長や老人会の方やいきいきシエンセンターの方に参加して頂き事業所の現状報告をし、意見や要望を頂きサービスにいかしています。	会議の際には、複数の地域の方の参加が得られており、地域に関する情報交換の機会につながっている。ホームの現状を報告しながら、会議を通じて意見等を出してもらいながらホームの運営に反映する取り組みが行われている。	会議に家族の参加が得られていないことや、以前は出席していた関連事業所の職員も欠席している状況である。ホームからの働きかけを行いながら、参加者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・区役所の担当者様との連絡・相談を密に取り情報や意見を頂き、利用者様のケアに繋げられる様に取り組んでいます。	生活保護の方の受け入れが行われていることで、市の担当部署との情報交換等が行われている。地域包括支援センターとの連携については、運営法人を通じても行われており、ホームの運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・施錠は行わず、夜間帯は防犯と安全の為にやっている。身体拘束は絶対しないよう、講習などを通じて職員一同取り組んでいます。	身体拘束を行わない方針のもと、日中は出入り口に施錠等を行わないように職員間で利用者の見守りが行われている。身体拘束に関する検討会議を実施している他にも、職員研修も実施する計画を立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	・虐待や身体拘束など、講習や説明などを通して行わない・見逃さない職場環境を目指して利用者様のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・利用者様で権利擁護を利用されている方は、いらっしゃると思いますが、日頃から、なかなか関わる機会が少なく、勉強や理解の機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時にご家族様やご本人様の要望や不安を伺い、当施設で可能な範囲を説明・同意頂き支援に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・利用者様の誕生日会や面会時、家族会の時などにご家族様の意見や要望をお伺いし運営に反映させる様にしています。	ホームでは、家族との交流会の機会をつくっており、交流の機会につなげている。家族からの要望等は、内容に合わせてホーム管理者と法人事務局で対応している。また、運営法人で発行されている機関紙を便りとして発送している。	管理者の交代等も重なり、現状、ホーム独自の便りが中断している。職員間での検討を深めながら、定期的なホーム便りの作成に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月フロア会議や全体会議など行い、施設運営に反映させる様にしています。また、急ぎで意見などある職員は主任や直接、管理者に意見も言って頂いています。	毎月の職員会議の他にも、日常的な申し送り等を通じた意見交換の時間をつくっており、管理者を通じてホームの運営への反映につなげている。また、ホームで職員アンケートを実施する等、職員からの意見等の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・管理者を通じて、勤務状況・態度・やる気などを報告し給料水準に反映し、職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・施設内での職員のケアの内容や力量の把握に努めています。但し、現状研修に参加できる機会が少なく、今後、研修の機会も増やしていきたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・外部研修の際などに、職員同士での交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入所後、1週間24時間シート使い情報を収集し、その後もケアを行いながらご本人様と関係を気づきながら情報を収集を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入所前から、ご家族様の不安や要望をお聴きし、ご家族様やご本人様に寄り添いながら関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・関係機関と連絡を取り合いながら、チームケアに努め、その時その時に合った支援を見極め・同意頂き、その他サービスも必要に応じて利用して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・入所後、他利用者様も含め一緒に生活する者同士信頼関係を気づき協力し合いながら支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入所後も家族様と連絡・連携を取りながら共にご本人様を支援していける関係を持ちながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの方が面会に来られたりはしますが、利用者様から会いに行ける機会は殆ど無いです。	利用者との入居前からの関係継続については困難になっているが、利用者の中には友人や知人の訪問が得られている方やこれまでの生活習慣を継続している方もいる。また、家族との外出も行われており、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者様全員でレクリエーションなどを通し孤立することなく、利用者様同士が関わり合える様な関係になるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退所されてからでも、ご家族様から何か相談などあれば対応・支援していますが、こちらから連絡は取れておりません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人様とコミュニケーションを取り、その中から希望や意向の把握に努めています。また、職員同士で情報を共有して支援に繋がっています。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら定期的に現状等を把握しており、利用者の意向等が日常の支援につながるよう取り組んでいる。また、定期的なカンファレンスを実施しながら、利用者の一人ひとりに関する情報交換等も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入所前からアセスメントを行い、入所後もご本人やご家族様と連携を取りながら情報収集し記録に残し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・入所後、一人ひとりの様子を記録に残し、また健康状態などを職員間で共有して把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的にモニタリングを行いカンファレンスを行っています。利用者様・ご家族様の意見も伺い説明・同意頂きケアプランを作成・実行しています。	介護計画については3か月での見直しが行われており、担当職員も参加しながら3か月でのモニタリングを実施している。また、日常的にも介護計画に関するチェック表を用意しており、利用者に関する変化等を把握する取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個別記録を記入し、1日の必要な情報をまとめて各利用者様毎にファイリングして職員間で情報共有して介護計画の見直しに取り入れるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・必要な物品など購入が必要な時などは、ご家族様でご用意して頂いたり、お預かりしているお金で施設の方で購入したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・町内の行事の参加や各訪問サービスを利用しながら豊かな生活になる様支援に繋がっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・2週に1度当施設の主治医の往診を受け、必要に応じて各医療機関を受診して頂いています。	協力医による定期的な訪問診療が行われている他にも、利用者の健康状態に合わせた受診支援等の支援も行われている。また、協力医療機関の看護師が定期的に訪問しており、健康チェック等の医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・1週間に1度、主治医のクリニックより訪問看護を受けており、介護職の気づきなど看護職に相談し、利用者様の体調変化に気を付けてケアしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は速やかに、サマリーを提出して迅速に対応して頂けるようにしています。また、入院時、病棟と緊密に連絡を取り合い関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・医療行為や終末期ケアを当施設は行っていない為、重度化する手前から、ご家族様や関係機関と相談しご家族様の意向の元、適切な方針を決めています。	利用者の身体状態等にも合わせた対応が行いながら、支援可能な取り組みが行われている。運営法人の関連の特養や有料老人ホームへの移行支援も含めて、利用者の段階に合わせた家族と関する話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急時のマニュアルや緊急連絡網などは準備しているが、常日頃から訓練など準備出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・避難訓練などを実施し、また、災害時に地域の方に協力をお願いするかたを決めています。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。非常災害時には近隣の方に協力をお願いする等の取り組みが行われている。また、ホーム内に必要な水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームでは、夜間パトロールや災害訓練等、地域の方との協力関係の取り組みが行われている。日常的な関係が非常災害時の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・利用者様一人ひとりの尊重とプライバシーの配慮し、職員間でのやり取りは個人名を出さないようにし、申し送りなどの際にも配慮しています。	理念にも掲げている「明るく、楽しく、元気よく」を振り返りながら、職員による対応や言葉遣いを意識につなげるように注意喚起等が行われている。また、毎月のミーティングでの振り返りや運営法人で接遇に関する研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・利用者様の意志決定を優先し、意思表示が難しい場合には選んで頂くなどの支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・利用者様の希望を伺い、何をしたいか優先して体調面なども考慮にして支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・ご自分で出来る方はご本人にお任せしていますが、出来ない方に関してはおしゃれとまでは言えませんが、身だしなみに気を付けてご自分で服を選んで頂くなど支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・利用者様の出来る範囲で準備や片付けなどをして頂いています。メニューに関しては決まっていますが、嫌いなものは提供せず配慮しています。	職員で事前にメニューを考えながら、その日の状況等に合わせた工夫が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、身体状態等に合わせた食事形態の提供や食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・栄養が偏らない様、メニューは帰をつけています。食事量や水分量を記録し摂取して頂ける様、声掛けなど支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・朝、夜基本2回口腔ケアをして頂いています。お昼に関しては、気になる方やご自分でされる方だけになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・利用者様の排泄を記録しパターンなどを把握する様にして声かけして、お連れしています。また、利用者様の状態に合わせてリハビリやパットの使用など支援しています。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的に職員間で排泄に関する情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた声かけ等の支援が行われている。トイレでの排泄を基本としており、日中と夜間に対応を変える等の取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分摂取をして頂き、体操やストレッチなど体を動かして頂いています。また、必要に応じて牛乳などの提供もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴時間は決まっています。順番が平等になる様毎回控え偏らない様になっています。	毎日の入浴の準備を行いながら利用者は1日おきに入浴している。利用者の身体状態等にも合わせた職員複数での対応も行われている。また、季節等に合わせた入浴やホーム以外の入浴施設で入浴を楽しむ取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・日中、アクティビティを色々提供しており、夜しっかり良眠して頂ける様心掛けています。また、日中臥床したい方は、適度に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬状のファイリングなど、全職員が関わり薬の効果などの把握に努めています。また、薬が変更になった時など、記録し変化をチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・嗜好品の提供は、ティータイムの時などに飲み物程度に対応しています。役割りやアクティビティに関しては、利用者様の生活歴や能力などに合わせて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・外出支援においては、近場の散歩程度かご家族様の協力で、外出が行えている程度です。	ホームでは、日常的に外出の機会をつくっており、近隣への散歩や買い物他にも、サロンや災害訓練等を通じた外出も行われている。また、季節に合わせた外出行事の他にも、利用者の希望等にも対応した喫茶外出等も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・必要としている利用者様においては、個別で多少のお金をご自分で管理して頂いています。また、買物と一緒に頂ける利用者様は、同行してご自分の好きなお菓子などを購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・利用者様から手紙を書くのは支援できていません。電話に関しては、ご家族様などから、かかってきた場合、本人様がかけたい場合などは対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・リビングや玄関などは、季節感の飾りつけや行事の際の写真などを掲示やしていますが、その他の場所には飾りつけなど出来ていません。	ホーム内は採光が良いこともあり、利用者は日中を明るい雰囲気過ごしている。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。また、行事の様子を写した写真の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者様同士の関係を考慮しながら、席の配置を行っています。また、共用としてソファーなどを利用して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室に使い慣れた家具などを持ち込まれている利用者様もいらっしゃいます。過ごしやすい空間になる様にしています。	居室には、使い慣れた家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もあり、利用者一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、趣味の物を持ち込んでいる方や身内を偲ばせるような物等を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者様に分かりやすく、物の配置やトイレ・居室など貼り紙をして、利用者様に分かりやすくしています。		